

1 学校教育目標

志をもち こころ豊かに たくましく生きる子の育成 ～ 一人一人が輝き、「笑顔」あふれる楽しい学校 ～

2 本年度の重点目標

- 感染症対策の徹底と教育活動の充実、行事や特別活動等の工夫
- 新学習指導要領に基づく教育課程の実施、授業の工夫改善、基礎基本と主体的な学び <知>
- 命や人権を大切にすること、思いやりの心の育成(人権、道徳、生活など) 規範意識やリーダー性の育成、自ら課題を解決する力の育成(特別活動など) <徳>
- 心身の健康と日々の主体的な取組、体力の向上と多様な動きづくり(汗の出る体育) <体>

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

| 評価の観点 | 評価項目(取組内容) | 取組(達成)の状況 | 改善の方策 |
|--------------|---|--|---|
| 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○言語活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・全教科を通じて、対話の場を設定して、言語活動の充実を図っていく。 ・豊かな国際感覚、コミュニケーション能力を身につけるため「話せる英語教育」の充実にむけて、ALTと連携を取りながら積極的な取組を進める。 ○わかりやすい授業の創造 <ul style="list-style-type: none"> ・児童に授業の見通しを持たせ、ふりかえりをさせることで、学びの成果を自覚させる授業を創造する。 ・タブレット等の教育機器を活用したり、具体物を通しての操作活動を行うことで視覚化を図り、よりわかりやすい授業を創造する。 ○プログラミング教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、児童の情報活用能力の育成を図る。 ・発達段階に即したプログラミング的思考の伸長を図る。 ○基礎基本の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業を行ったり、家庭との連携を図ったりする等、さらに個に応じたきめ細やかな指導を工夫する。 ・「さわやかタイム」「計算スキルタイム」の時間を授業以外に設定し基礎学力の定着を図る。 ○授業づくりの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫改善のための研修に努める。 ○家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習を行う等、主体的に学びに向かう姿勢を養う。 ○未履修内容の学習 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習タイムなどを活用して、無理なく未履修内容を学習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導技術の向上のため一人一授業を行い、言語活動の充実を図るための研修を積んだ。 ・全学年でALTと共に英語活動に取り組んだ。自由小フェスでは、ALTと交流する時間も設定した。 ・単元の学習の流れやめあてを掲示し、授業の見える化に努め、学習の見通しをもてるようにした。さらに学習の最後にふり振り返り、学びのまとめを行った。 ・タブレットPCやデジタル教材等を活用したり、具体物で操作活動を行ったりすることで視覚化を図られた。 ・プログラミングの職員研修を行い、指導技術の向上を図った。また、発達段階に応じて、プログラミング的思考の伸長を図った。 ・少人数指導を取り入れ、きめ細やかな指導を行った。 ・「さわやかタイム」「計算スキルタイム」の時間を授業以外に設定し基礎学力の定着を図った。 ・国語科を中心に、個人思考の充実を図り、授業の中に対話を取り入れ、集団の中で思考力、判断力、表現力の育成に努めた。 ・3年生以上で自主学習を取り入れ、自主学習の手引きなどを活用して、充実を図った。1階中央廊下にて、自主学習ノートを掲示し、意欲の向上を図るとともに、上級生のノートを手本とした質の向上も図った。 ・朝の学習に教科学習を取り入れ、無理なく未履修内容を学習することができた。未履修内容の学習後も教科学習を継続し、学力向上を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の趣旨を具現化するため、日々の学習を充実させる研究・実践を行う。 ・全ての授業等を通して、言語活動のさらなる充実に向けて取組を進める。 ・全ての授業で、めあてからふり振り返りまでの学習の流れを定着させ、児童に単元や毎時間の見通しを持たせる。 ・漢字タイムや計算タイムなどを活用し、基礎基本の定着を図る取組を継続する。 ・タブレットPCなどの教育機器の積極的な活用を進め、個に応じた学びを充実させる。 ・家庭と連携しながら、家庭学習の取組について考える機会を設ける。 ・ALTと連携し、外国語活動や外国語の指導の充実を図る。 ・算数科等で引き続き少人数指導を実施し、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・教科横断的に思考力、判断力、表現力を育成するための年間指導計画の作成を進めていく。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、講師を招聘した授業改善の研修を行い、教師の指導力の向上を目指す。 |
| 特別活動 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校生活の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・「4つの大切なこと」「4つの大事な環境」をはじめ、自分の学校や学級をより良くしていこうとする意欲や態度、実践力をさらに育てる。 ○落ち着いた生活習慣の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた1日がスタートできるよう、朝の活動を大切に。児童が教師と話しやすい雰囲気をつくり、可能な限り児童と共にいる時間を増やし、内面理解を深める。 ○素晴らしい人間関係の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会活動、異学年交流を行うことで、学級活動や児童会活動などをより一層充実させ、児童の自主性を育む。 ・学校いじめ防止基本方針の取組内容を計画的に推進することで、よりよい人間関係を育んでいく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の制限がある中で、児童会活動や委員会活動で「4つの大切なこと」「4つの大事な環境」を大切にしたい学校風土づくりに努めた。 ・高学年が中心となって学校生活をより過ごしやすいように、児童会や委員会の活動の活性化を図った。一定の効果もあったが、コロナ禍のこともあり活性化しにくい面もあった。 ・朝の活動(読書と腰痛タイム、学習タイム、児童朝会)が定刻通り落ち着いた始められている。 ・可能な限り児童と共にいる時間を増やし、児童が教師と話しやすい雰囲気をつくることのできるよう心がけた。 ・地区児童会後の時間や自由小フェスなどの異学年交流を図り、児童が計画的・主体的に取り組めた。 ・定期的に生活アンケート等を取り、問題の早期発見を心がけた。また、教職員間、SCや関係諸機関とも連携し、組織的に活動した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に挨拶ができる児童を育てるため、全校的な取組を充実させていく。 ・学校生活向上のためのクラス等での取組(生活目標の振り返り、ハートフル運動等)を継続して行っていく。 ・心地よい静けさの中で行う「さわやかタイム」を継続して実施する。 ・A 問題行動の予防、早期発見、早期対応、児童の内面理解に継続して組織的に取り組んでいく。(SC・学年間の連携、アンケートや教育面談の定期的な実施等) ・児童会活動や委員会活動を児童が、できることを創意工夫しながら、計画的・主体的に取り組めるようにさらに充実させ、児童の主体性や自己有用感の向上をめざし、よりよい学校文化を創造する。 |
| 道徳 人権教育 | <ul style="list-style-type: none"> ○人権が大切にされる学級・学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に意識を高めながら、自他の人権を尊重し、相手を認め支えようとする人間関係を育む指導を行う。 ・人権週間や人権学習についての取組について、ホームページや通信を通して家庭に啓蒙したり、家庭においても兵庫県道徳教育副読本を親子で読んだりする等、保護者にも考える機会を提案する。 ・人権週間に充実させ、自尊感情や思いやりの心を育む。 ・ネットモラルに関して、インターネット教材や映像を用いた指導を行うことで道徳的判断力を高める。 ・スクールカウンセラーによる研修を実施して、児童の内面理解に基づいた指導法について研修する。 ・新型コロナウイルス感染症による誹謗・中傷等の新たな人権課題についての正しい理解と問題解決に向けて考える指導を行う。 ○道徳的実践力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「いきるちから」や兵庫県道徳教育副読本を活用し、道徳性の涵養を図り、体験活動を通して道徳的実践力が育つ指導のあり方について研修を深める。 ・道徳的実践力を育てる「考え、議論する」道徳授業の在り方等について、道徳教育の要となる道徳の時 | <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる教育活動の中で、人権について考えさせた。 ・全教育活動を通じて、学年・学級づくり、仲間づくりに取り組んだ。 ・各学年で行った人権学習を、学年通信やホームページを通して保護者への啓蒙を行った。また、学年の実態に応じて、兵庫県道徳教育副読本を用いて家庭でも考える機会を持った。 ・人権週間やオンラインでの人権集会では、ハートフル運動での優しさや人権作文、標語、ポスターの紹介を行い、周りの人への思いやりについて考える場をもった。 ・ネットモラル教材を用いた指導を行うことで道徳性の涵養を図った。 ・スクールカウンセラーによる「ストレスマネジメント」の授業を行った。 ・新型コロナウイルス感染症に対する正しい理解を深め、誹謗・中傷等を防ぐために日常的にパワーポイントで作成した資料や掲示物を用いて、学級や学年での指導を行った。 ・道徳の授業の展開や評価の仕方について研修を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権推進計画に基づいた指導を推進していけるように、日常的に意識を高めて取り組む。 ・SNSに関連した問題は社会的に増加傾向にあるため、引き続き、ネットモラルに関する方法を考える。 ・スクールカウンセラーによる授業や職員研修を引き続き実施して、児童の内面理解につなげる。 ・道徳の実践力を育てる「考え、議論する」道徳授業の在り方等について計画的に研修を行い、道徳教育の要となる道徳の時間の充実を図る。 ・今年度は実施しづらかったが、道徳的心情や実践力を育てるため、新しい生活様式に合わせた学校行事や体験活動から始めた指導を計画的に行っていく。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する児童について研修を深め、適切な教育的支援を行い、合理的配慮を組織的に推進し、指導の向上を図る。 ・関係機関や保護者との連携をとり、休校中の影響なども含め、児童、保護者のニーズにあった支援を心掛ける。 ・感染症対策により、大きく変わった環境に対応できるように、分かりやすい指導・支援を心掛ける。 ・外国にルーツを持つ児童の日本語指導を行い、よりよい学校生活がおくれるように支援する。 ○インクルーシブ教育システム構築のための取組の充実。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事等、機会をとらえ、互いを認め合い、支えあう仲間づくりを計画的に推進するため、生活指導委員会、教育支援委員会、日本語指導委員会等、支援が必要な児童の様子を一括できる様式にし、情報共有して組織的に指導していく。 ・インクルーシブ教育システム構築に向けて、道徳や人権教育等と連携して進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携するとともに、指導、助言を個に応じた指導に生かした。 ・外国にルーツを持つ児童の日本語指導を、数名の担当者が互いに協力し合い、個に応じた指導ができた。 ・新型コロナウイルスの影響で校外等の研修や、校内での全体の研修が難しく、情報共有できる場が少なかった。 ・新型コロナウイルス感染対策を、子どもたちに分かりやすいよう指導を心がけてきたが、個々の状況に応じた対応を職員で共有しきれないところもあった。 ・外国にルーツのある児童も多いので、新型コロナウイルス感染対策について、子どもだけでなく、保護者にも分かりやすい説明やサポートをする必要があった。 ・毎月、教育支援委員会、校内支援委員会を開催し、児童全員の支援の体制や方法を検討し、指導に活かした。 ・生活指導委員会、教育支援委員会等、支援が必要な児童の様子を一括できる様式にし、より情報共有を効果的に行えた。 ・新型コロナウイルス感染対策により、ことばの教室などの見学ができなかったり、子ども同士の関わりが密に出来なかつたため、お互いの理解が進まなかつたところもある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮と教育的支援についての研修の機会を増やし、具体的な事例などを基にして、各学級での合理的配慮の実践例を広め、指導の向上を図る。 ・関係機関と連携しながら、保護者との相談を密にしていき、個別的教育支援計画の充実を図り、児童、保護者のニーズにあった支援を心掛ける。 ・特に外国にルーツのある児童は、日本語指導や新型コロナウイルス感染対策などを含めた家庭への支援についても関係機関等とも連携しながら支援の方法を探る。 ・特別な支援を要する全ての児童の個別的教育支援計画と個別の指導計画を作成し、支援の充実を図る。 ・児童らが、様々な特性を持った児童がいることを知る機会を増やし、それを認め合える学級経営を基に、学校全体で組織的に推進していく。 ・「インクルーシブ教育システム」の構築に向けて、道徳や人権教育等 |
| 健康 安全教育 | <ul style="list-style-type: none"> ○心身の健康づくり体力づくり○感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> ・「新しい生活様式」を導入し、感染及び拡大のリスクを低減する。また夏季休業期間短縮等でその際の熱中症対策など健康確保に向けた取組を行う。合わせて、健康づくりを意識し自ら取り組むことができるよう、掲示や指導等の工夫を行う。 ・基本的な生活習慣の定着化を図るため「ふりかえりカード」での点検指導を継続的に行う。 ・楽しい体育、適度な運動量を確保できる体育の授業作りに努め、児童の体力の向上を図る。 ・子どもたちが主体的に計画する体育イベントを開催し、児童の健康づくりや仲間づくりの意欲の向上を図る。 ○学校保健委員会を開催し、安全・健康・食育・保健体育教育への関心を高め、家庭と連携した取組の充実を図る。 ○安全指導 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携を図り、安全教育を推進する。 ・防災訓練(大雨・不審者対応・地震)の内容を工夫して、危険予測能力や危険回避能力を高める取組を、家庭、地域、関係機関と連携して取り組む。 ・感染症対策の観点を踏まえ、配膳や食事中の安全面衛生面を考慮した給食指導を、継続的に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断は、密を防ぐために距離をとって整列させる等感染症対策を十分に調じた上で実施した。 ・ウォータークーラーを数台設置したり、ミストシャワーを追加したりと熱中症対策をして夏場の学習活動を行った。 ・毎朝の体温測定を含む健康観察を徹底して行い、児童の健康状態の確認に努めた。また、環境衛生のために毎日職員で校舎内の消毒作業にも努めた。 ・保健指導や放送や掲示板を利用して視覚や聴覚に訴え行動化できるよう工夫した。 ・毎月「ふりかえりカード」で生活習慣指導について家庭の協力を得る事ができた。校内では健康観察や給食指導、歯っぴー大作戦、腰痛外などの継続した取組によって健康づくりを意識させた。 ・体育科の授業は、運動後の手洗い・消毒をするなど感染予防の意識を持たせた上で「運動量のある体育」の実践に努めた。委員会主催での全校交流遊び、大縄大会では全生徒が参加できる体づくり仲間作りを実施した。 ・クラスでの安全教育(指導)はもちろんのこと、毎朝職員の校門での登校指導・下校指導・地区児童会での安全旗の使い方やDVD視聴による交通安全面に関する安全指導に取り組んだ。 ・地震の避難訓練を実施するとともに学年のカリキュラムに応じた防災教育に取り組んだ。 ・定期的に校外指導を実施し、下校後の児童の実態把握に努めた。 ・学級指導や委員会活動として児童が放送でマスクの着用・私語の厳禁を呼びかけるなど感染症対策の重要性が全校生に伝わるように給食指導を日々徹底して行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した健康意識を育てるため、振り返りカードからみられる課題や基本的な生活習慣の確立、ストレスマネジメント、危険予知能力の育成などの取組を行う。 ・腰痛タイム・給食指導・歯みがき指導・感染症予防など継続した指導を行う。 ・全校体育だけでなく、体育イベントを開催し児童の健康づくりの意欲の向上を図る。 ・委員会活動等で多くの学年の児童が外に出るきっかけを作ること、外で遊ぶことが好きな児童が増えるようにする。 ・「防犯ブザーやヘルメットの着用を推進するため、家庭への呼びかけ、交通事故防止や学校内外の安全について、啓発を図る。 ・引き続き外部関係機関との連携を図り、安全教育の内容を深める。 ・防災教育のカリキュラムの充実を図り、防災や減災の意識を高める。 ・新しい生活様式に応じた健康・安全・食育・防災教育に取り組む。 ・新型コロナウイルス感染症の発生に関する心のケアが必要な児童の早期発見に努め、心身の健康に適切に対応する。 |
| 家庭 地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域のコミュニティとして <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール、参観日等で可能な限り学校や児童の様子を公開し、地域に信頼され愛される学校を創造する。 ・感染症対策として学校行事の見直し、感染対策に気を配りながらの日々の教育活動、メールシステムによる速やかな情報発信などを実施することで、安心される学校を目指す。 ・ホームページや通信、PTA広報誌、地区懇談会等を通して積極的な情報発信を行い、保護者や地域の方々に協力依頼していく。 ・避難所として開設を想定した諸準備を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・休校期間中は校歌や体を動かす学習の動画を配信した。 ・学校行事やオープンスクール・参観日を通して、個人情報保護にも留意しながら、児童の姿を可能な限り公開した。 ・ホームページや学校通信・学年通信等で、児童の肯定的な変容の様子を伝えた。また、メール配信でも細やかな情報提供に努めた。 ・登下校の見守り等で、老人会・垣根隊の方々との協力を得ることができた。 ・クラブ活動や平和学習に、地域指導者を可能な限り招き、多様な専門的な方々と触れ合う学習を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、オープンスクールや学校行事等に来ていただけるように、時期を見直すとともに、感染対策を実施し、工夫を工夫する。 ・ホームページや学級通信で学校行事や学年・学級の様子を継続的に情報発信する。 ・学級や学年の状況や課題、指導者としての考えや思いを通信や懇談等でも保護者に伝え、課題の共有に努める。 ・校内に居住されている人材を発掘し、その情報を引き継ぎ教育活動に活かす。 |

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

6観点の取組項目に沿って、非常に細かく達成状況を分析することで的確な自己評価が行われているので、今後も継続して欲しい。取組内容については、毎年の取組状況に加えて、アンケート結果を数値化し、3年間の経年比較を行っているので評価しやすい。取組状況や改善の方策については、もう少し具体的に表現するとよりわかりやすい評価になるので、検討願いたい。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価

・新型コロナウイルス感染症の影響で、年度当初に長期間臨時休校となったが、様々な工夫をしながら児童の学力向上に組織的に取り組んだことは評価に値する。
・常に学習方法を改善し、個々の児童に応じた教育をされている教職員の誠意を感じた。自主学習の充実を図るとともに、質の向上も図られたところは評価に値する。
・今までの学習環境と変わってきている様子が理解できた。今年度もタブレット端末やデジタル教材等を意欲的に活用し、より質の高い授業づくりに取り組まれている。また、少人数授業やICT機器を利用した視覚支援等も行われている。今後も是非継続した取組をお願いしたい。
・自己評価Aは妥当である。

・コロナ禍、様々な活動制限がある中で、児童会活動や委員会活動で「4つの大切なこと」「4つの大事な環境」を大切にしたい学校風土づくりに取り組まれていることは評価できる。
・ホームページでの情報発信もされている。最近では、「自由小フェス」での児童の楽しそうな様子が印象的だった。異学年との交流は、学校生活の良い雰囲気づくり、人間関係づくりに繋がるため、今後も継続して欲しい。
・児童と共に過ごす時間を増やしたり、定期的にアンケートを取ったりすることで、いじめの早期発見に努めている。
・人と関わる時、最も大切なのは、相手の気持ちを知ることである。そのためには、まず聴くことが重要である。人は人によって成長できると言われるが、そういう意味からも教職員と児童が話しやすい環境づくりに取り組まれていることは素晴らしい。
・自己評価Aは妥当である。

・ネットモラル教材を用いた指導を行うことで、道徳性の涵養を図ったり、新型コロナウイルス感染症について正しく理解させ、誹謗中傷等を防止するための指導を行ったなど、人権が大切にされる学級・学校づくりに努めている。引き続き、発達段階に応じて系統的な指導を願いたい。
・新型コロナウイルス感染症対策のため、行事や体験活動が不十分だったが、感染症に対する正しい理解を深め、誹謗・中傷等を防ぐために、パワーポイントで作成した資料や掲示物を用いて、学級や学年での指導を行うなど、評価項目を工夫しながら取組を行っている。次年度以降も模索して欲しい。
・「同じ」という言葉があるように、他人事ではなく、自分の事として感じ、行動していく心を育てることが大切である。大人も、児童と共に育つ共育という学校風土を創りあげてほしい。
・自己評価Bは妥当である。

・生活指導委員会、教育支援委員会等で、支援が必要な児童について効果的に情報共有が行えるシステムが構築できているが、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年と比較し児童の活動の様子を見学できなかったため、情報の共有化がしきれなかった事が評価Bにつながった。
・外国にルーツを持つ児童への日本語指導等の個に応じた指導が、組織的に行われている。引き続き、デジタルツールを利用した翻訳など、保護者へのきめ細やかなサポートの継続を願う。
・保護者アンケートの回答にあつたように、様々な制約があるなかで、保護者と教職員とが話し合える機会の設定を今後模索していく必要がある。
・自己評価Bは妥当である。

・児童の体温測定や健康観察の徹底ならびに、教職員による校舎内の消毒に努めたことで、新型コロナウイルスへの感染予防の重要性の意識が、児童にも浸透している。また同時に、ウォータークーラーやミストシャワーを追加設置するなど、熱中症対策も講じしており、保護者にも評価を得られている。
・「家庭生活・学習ふりかえりカード」により、家庭と連携して、生活習慣確立のための取組が行われており、児童自身が生活を振り返るきっかけとなっている。興味付けから振り返りまでしっかり行うことによって、生涯を見通した健康安全教育につながるものになる。
・交通安全教室が実施できなかったが、DVD視聴による安全指導を行ったり、定期的な校外指導より下校後の児童の実態把握に努めたりするなど、熱心に安全指導にも取り組んでいる状況がわかる。防災については、清掃時間終了後の時間帯に抜き打ちに実施したことで、いざという時に必要で、危険回避能力を身に付けさせることにつながった。
・自己評価Aは妥当である。

・今年度は、感染症対策のため、保護者や地域住民が実際に学校を訪ねることができず残念だったが、休校期間中、学校限定ホームページに「校歌」や「身体を動かす学習」を配信したり、学校再開後も各学年の様子が分かりやすく掲載されたりと、学校の取組を垣間見ることができている。
・今後、情報発信については、リアルタイムで行ったり、webページ上でコミュニケーションが取れたりするなどを通して、学校・家庭・地域の連携をより一層深めることのできるものとなることを期待する。
自己評価Bは妥当である。